

湖北が地域運動を開始

25日に「湖北の高校を守る会」を結成

党派を超えて市議員が9人、高教組から9人

25日の夕方7時、長浜「臨湖」の研修室に31人が集いました。「湖北の高校を守る会」の結成総会です。今まで一堂に会したことのない異色の顔ぶれです。前日に意見書を採択した長浜市の市議員9人(6つの会派のうち4つ)が党派を超えて合流しました。高教組からは、全支部と本部から計9人が参加。その他、母親連絡会、全教湖北、年金者組合、革新懇、地域住民、長農のOBのみなさんです。

竹内市議が、挨拶で「会」の結成にいたるまでの経過報告。杉原高教組委員長が、県の動き、地方議会の様子など緊迫した生々しい情勢と、統廃合の中心問題を説明。「昨日の意見書採択は、長浜市の総意をはっきりと示した。運動の大きな後ろ盾になる。また、党派を超えた多くの議員さんや、いろいろな分野の人が集まった今日の集いは、地域の思いを代表しており、湖北の高校を守る大きな力になる」とエールを送りました。

続いて、会の名称を「湖北の高校を守る会」とすること、多くの個人が世話人として名を連ねること、高教組の対月さんが事務局長になり数人で事務局員を構成することなどが決められました。「湖北の高校を守る会」の結成を全員の拍手で採決しました。今後、高校の同窓会とPTA(14団体)、小中学校のPTA(41団体)、老人クラブ、労働組合などにも参加を呼びかけることに。当面は10月16日の「湖北の高校を守るつどい」の成功と、署名運動に力を尽くすことを決めました。

意見もたくさん出されました。「私学と県立は今後どうなっていくのか」「生徒が減るといのが湖北は」「今、彦根など南の方に出ている子がいるけど、生徒減の中に入っているのか」などです。これに対して「県は私立を増し統廃合をよりすすめる方針」「生徒

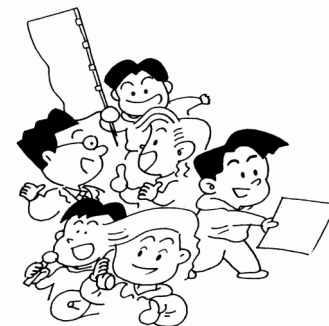


が減ると言われる湖北でも、8年後の時点で生徒数は変わらない」「全県一学区で、70～80人が南下している。この分、さらに湖北の定員が減られる。全県一学区の見直しも大事」。署名で訴える内容と運動のイメージが広がっていきました。

24日膳所駅前70筆の署名 「嘉田さんがそんなことするの」

24日、執行委員会を終えて、16:00～17:00膳所駅前宣伝と署名の行動。本部役員9人に福祉保育労の山本さんが加わり、10人の行動になりました。「大津では北大津と堅田が対象だが、全県で高校が減れば、子どもが大津に来るようになり、ますます大津の子どもが大津の高校に行けなくなる」と、福保労の山本さんも加わり、3人がマイクを握り通行人に呼びかけます。

「嘉田さんがそんなことするの」と驚く女性。「ええ、穏やかな雰囲気に見えますが、教育や福祉には結構冷たいようです」と応じると、「ほんと。こんなことするようでは冷たい人ですねえ」と署名。自分から寄ってきて「うちの子も高校と中学へ行っている。(統廃合は)ほんとに困ります」と署名する女性。「知らないうちに学校がなくなれば孫が行くところがなくなる」と年配の男性。ピラを受け取り熱心に読む姿の中学生もいました。1時間に70筆の署名。29筆を集めた人もいます。



高校統廃合はストップせよ
速報 第17号 2010/09/27 発行：滋賀高教組

(増し刷りして全教職員に配布し、また掲示板に貼るなどして下さい)